

## 循環経済への貢献

### 廃棄物の適正処理

#### 廃棄物処理と廃棄物管理

大栄環境グループは、自治体や各種メーカー、ゼネコン、医療機関などのさまざまな事業者から排出される廃棄物の処理を受託し、廃棄物の収集運搬から中間処理・再資源化および最終処分に至るまでのワンストップサービスを提供しています。

排出事業者から委託された廃棄物を確実に適正処理するため、大栄環境グループは独自の廃棄物一元管理システムを導入し、廃棄物の品目、数量、処理方法などの正確な記録管理や情報提供に努めています。また、廃棄物処理法に基づき、焼却等熱処理施設の排ガス分析結果や、最終処分場放流水の分析結果などの維持管理情報を毎月公表しています。

さらに、処理施設のオンライン現地確認サービスやPC・スマートフォンを用いた廃棄物追跡サービスを導入し、排出事業者のニーズに合わせた効率的かつ安心・安全な廃棄物処理の管理を提供しています。

### 資源循環の効率化と高度化

あらゆる廃棄物に対して、大栄環境グループの総合力を活かし、効率的な廃棄物処理・資源循環を提案しています。特に、2050年カーボンニュートラル実現の観点から、CO<sub>2</sub>排出係数の高い廃プラスチックは排出量の削減や循環利用の促進が急務となっています。大栄環境グループでは、廃プラスチックから再生ペレットやリサイクルパレットを製造する施設の強化を図りながら、パートナー企業との連携により、廃プラスチックの新たなリサイクル技術の開発にも取り組んでいます。

### 水資源の取水量・排水量・有効活用

大栄環境グループの各事業拠点では、取水量などの把握および水資源の循環利用や雨水の有効活用を通じて、周辺環境への影響の低減に努めています。



水資源を循環利用する  
三重リサイクルセンター  
水処理施設 RO膜処理装置

### 生物多様性の保全

#### 環境省「自然共生サイト」に認定

2023年10月6日、宮崎県三股町にある連結子会社の(株)総合農林社有林の特定エリアにおいて、「自然共生サイト」の認定を取得。「自然共生サイト」は、民間企業や団体の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている場所を対象に、保全価値や管理計画といった基準を満たした区域(サイト)を認定する環境省の制度です。

この認定により、希少種などだけではなく広く生態系に意識を向けることが社会の持続にもつながる、という想いを一つの形にすることができました。今後は地域の関係者や専門家等と協働し、認定サイトのモニタリング管理、生態系保全のための手入れなどを継続し、2030年ネイチャーポジティブ<sup>※</sup>に貢献します。

※ 2030年ネイチャーポジティブ:生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること



調査の様子



希少種等(南限植物または絶滅危惧植物)の確認



# 気候変動への対応

## サーマルリサイクルによる削減貢献

廃棄物焼却時に発生する熱を回収することにより発電を行っています。発生した電気を自社施設に利用するとともに、余剰分を売電することで自社および地域社会の温室効果ガス削減に貢献しています。



### 自家消費電力量・販売電力量 (MWh)



### 2025年3月期の実績

総発電量 **132,978 MWh**  
 うち販売電力量 **61,467 MWh**  
 削減貢献量 **2.6 万t**



## 再資源化による削減貢献

RPF、鉄・銅・アルミスクラップ、およびリサイクルパレットなどのさまざまな廃棄物の再資源化に取り組み、温室効果ガス削減に貢献しています。

### 2025年3月期の実績

出荷量 **48,525 t**  
 削減貢献量 **11.7 万t**

### 廃棄物の再資源化による出荷量 (t)



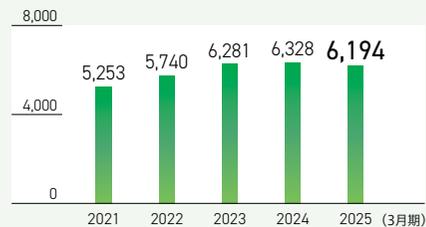
## 社会全体の温室効果ガス削減への貢献

廃棄物を資源やエネルギーとして循環させる取り組みを進め、社会全体の温室効果ガス削減を目指しています。2025年3月期は、合計18.9万トンの温室効果ガス削減貢献および吸収量でした。

## 太陽光発電による削減貢献

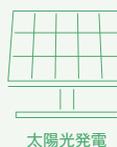
大栄環境グループでは最終処分場の跡地利用の一つとして太陽光発電を行っており、FIT制度を活用して売電を行っています。

### 太陽光発電電力量 (MWh)



### 2025年3月期の実績

総発電量 **6,194 MWh**  
 うち販売電力量 **5,550 MWh**  
 削減貢献量 **0.2 万t**



## 社有林による固定

グループ所有の森林面積は約8,170ヘクタール(2025年6月末現在)となり、この広大な森林によって固定される年間のCO<sub>2</sub>吸収量は4.4万トンとなります。

### 2025年3月期のCO<sub>2</sub>吸収量

**4.4 万t-CO<sub>2</sub>**  
 保有山林 **全国 29 ヵ所**



## 気候変動と温室効果ガス排出量

大栄環境グループは、気候変動への対応が重要な経営課題の一つであると認識しています。廃棄物処理の高度化やリサイクル率向上をはじめ、廃棄物焼却による発電やバイオガス発電等のエネルギー創出により、廃棄物処理事業を起点とした社会全体の温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。気候変動に関するガバナンスや戦略、財務影響などの詳細な開示は、TCFD<sup>※</sup>提言に沿ってウェブサイトにて掲載しています。併せてご参照ください。

※ TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)は2023年10月に解散。2024年からはIFRS(国際会計基準)がその役割を引き継いでいる。

気候変動への対応  
<https://www.dinsgr.co.jp/csr/environment/#p02>

## 指標と目標

### 大栄環境グループの温室効果ガス排出削減目標

|      |                                    |      |  |
|------|------------------------------------|------|--|
| 長期目標 | 2050年までに大栄環境グループ全体でカーボンニュートラルを達成する | 中期目標 | 2030年までに大栄環境グループ全体の電気使用によるCO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロを達成する |
|------|------------------------------------|------|--|

### 大栄環境グループの温室効果ガス排出量実績

|           | 対象                      | 2024年3月期 (t-CO <sub>2</sub> ) | 2025年3月期 (t-CO <sub>2</sub> ) |
|-----------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| スコープ1     | グループ全体 <sup>※1</sup>    | 261,601                       | 252,315                       |
| スコープ2     | グループ全体 <sup>※1</sup>    | 25,013                        | 19,766                        |
| 合計        | グループ全体 <sup>※1</sup>    | 286,615                       | 272,082                       |
| (参考)スコープ3 | グループ全体 <sup>※1 ※2</sup> | 223,306                       | 184,299                       |

※1 グループ全社のうち、期中に連結子会社となったディーデザイン(株)、アイナックフットボールクラブ(株)は算定対象外

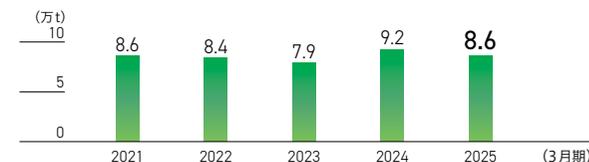
※2 報告対象年度において大栄環境グループに含まれる法人が対象

## 温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の排出削減

2050年カーボンニュートラルの達成に向けてエネルギー使用量と温室効果ガス排出量の推移を管理する取り組みを進めています。

2025年3月期のエネルギー使用量(石油換算)は43,676キロリットル、エネルギー使用による温室効果ガス排出量は8.6万トンとなり、前期と比較すると0.6万トンの減少となりました。要因としては、新炉建替を見据えたガス化溶融炉の停止による燃料使用の減少、2023年に稼働した新規焼却炉の発電自家消費による電気使用の削減が考えられます。

### エネルギー使用による温室効果ガス排出量



### グループ全体のエネルギー使用量と中間処理延べ重量



### エネルギー消費原単位の定義

$$\text{エネルギー消費原単位 (L/t)} = \frac{\text{原油換算エネルギー使用量 (L)}}{\text{中間処理延べ重量 (t)}}$$

### エネルギー消費原単位の推移

| 年次         | 2021 (L/t) | 2022 (L/t) | 2023 (L/t) | 2024 (L/t) | 2025 (L/t) |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| エネルギー消費原単位 | 21.9       | 19.2       | 18.1       | 20.6       | 19.5       |

化学物質管理  
 環境マネジメント  
<https://www.dinsgr.co.jp/csr/environment/>